

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Twenty-year trajectories of alcohol consumption during midlife and atherosclerotic thickening in early old age: findings from two British population cohort studies. 中年期 20 年間の飲酒経過と初老期の粥状硬化性動脈肥厚：イギリスの 2 集団による検討</p>		
執筆者		
Britton A, Hardy R, Kuh D, Deanfield J, Charakida M, Bell S.		
掲載誌		
BMC Med. 2016 Jul 29;14(1):111. doi: 10.1186/s12916-016-0656-9.		
キーワード	PMID	
飲酒経過、粥状硬化、頸動脈内膜中膜厚	27473049	
要 旨		
<p>目的： 疫学的エビデンスからは、心血管疾患に対して少量～中等量飲酒は保護的に、多量飲酒はリスク上昇に影響すると示唆される。しかし、アルコールが血管壁の粥状硬化変化に及ぼす影響については議論がある。殆どの研究は、アルコールと粥状硬化の代替指標である頸動脈内膜中膜厚(cIMT)の関係を横断的に調べたものである。一回のアルコール測定の場合、アルコールへの曝露がその後も不変であると仮定しており、蓄積的な有害効果の可能性を考慮していないため、誤った推定をもたらす可能性がある。そのため、著者らは中年期 20 年間の飲酒経過が初老期の粥状硬化に及ぼす影響を調べた。</p> <p>方法： 対象はイギリスの 2 つの住民コホート(Whitehall II cohort of civil servants と the MRC National Survey of Health and Development)から集めた男女計 5403 人。中年期 20 年間の飲酒経過と初老期の cIMT との関連を検証し、年齢、性、社会経済的地位、人種、喫煙で調整した。</p> <p>結果： 共変数の調整後、継続的に多量飲酒した対象者は中等量飲酒を続けた対象者に比べ、cIMT が平均して 0.021mm 肥厚していた (95%CI 0.002~0.039mm)。これは横断分析では見られなかった結果である。過去飲酒者(即ち飲酒を止めた者)は中等度飲酒者に比べ cIMT が 0.021mm 肥厚していた(95%CI 0.005~0.037)。非飲酒者と継続的に中等度飲酒した者には有意な差を認めなかった。</p> <p>結論： 中年期の飲酒習慣は粥状硬化に影響し、継続的な多量飲酒は継続的中等度飲酒に比べ cIMT 増大に関連する。この結果は横断分析だけでは得られず、飲酒の経年過程を見る重要性を明らかにした。継続的な中等量飲酒が飲酒無しに比べ粥状硬化に有利に働くという証拠は得られなかった。</p>		